

8月の安心かわら版

8月の主な行事

1日	： 水の日	11日	： 山の日
6日	： 広島平和記念日	13日～16日	： お盆
7日	： 立秋	23日	： 処暑
9日	： 長崎原爆の日		



知ってる？

集中豪雨から身を守る対策

集中豪雨とは

集中豪雨は、梅雨前線の停滞や台風の接近等を原因として、狭い範囲に数時間に渡って降る大量の雨のことを指します。このような局地的な大雨は、険しい山や急流が多い日本では、河川の氾濫や土砂災害を引き起こし、また建物の浸水や道路の冠水といった洪水被害が発生する危険があります。



集中豪雨の覚えておくべき5つの特徴

- 1 梅雨期の終わり頃等、日本付近に前線が停滞しているときに集中豪雨になりやすい。
- 2 台風が日本へ接近しているときや上陸したとき、集中豪雨を伴うおそれがある。
- 3 日本では、1976年～2020年にかけて、1年間の内、1時間に50mm以上の雨が降る回数が増加している。
※気象庁では、1時間に50mm以上80mm未満の雨を「非常に激しい雨」、80mm以上の雨を「猛烈な雨」と表現している。梅雨期の終わり頃等、日本付近に前線が停滞しているときに集中豪雨になりやすい。
- 4 空が真っ暗になる、雷鳴や稲妻が起きるといった現象は、集中豪雨の前兆にあたる。
- 5 天気予報で「大気の状態が不安定」「天気の急変」等の表現があるときは注意が必要。

大雨や冠水から身を守る。集中豪雨に備えよう

天候の変化に注意する

「急に真っ黒な雲が近づいてくる」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見える」といった天候の急変は、集中豪雨につながる「発達した積乱雲」が近づいている兆しになります。天気予報での、大雨や洪水の警報・注意報や雷注意報はもちろん、「大気の状態が不安定」「天気の急変」等の表現にも注意しましょう。

「水のう」を作って浸水を防ぐ

ゴミ袋に半分程度の水を入れれば、土のうの代わりに「水のう」を作ることができます。トイレや風呂場、洗濯機の排水口等から水が噴き出るので、水のうを置いて逆流を防ぎましょう。また、土を入れたプランターや水を入れたポリタンクをレジャーシートで巻き込み連結することでも止水を行うことができます。

避難時は、服装と持ち物に注意する

洪水の避難時は、上下が分かれているレインコート等、動きやすい服装を心掛け、軍手やヘルメットを身に付け、長靴ではなく、ひもで締められる運動靴かトレッキングシューズを履くようにしましょう。

冠水時の道路に注意する

大雨によって氾濫の危険性がある河川や用水路には近づかないようにしましょう。地面より低い道は冠水する危険があるので通らないようにし、また浸水被害を受けやすい地下・半地下から避難することが大切です。ふたが外れたマンホールに転落する危険性があるので、冠水した道路には近づかないようにしましょう。

秩父支店スタッフ ～よろしくお願ひします～



レジアスインパクト(株)秩父支店

chichibu@rezeous.co.jp

〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町26-21

TEL 0494-27-3210 FAX 0494-26-6555

事務所の電話番号も登録お願ひします！